

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

- 「生徒たちが『入学してよかった』と誇れる学校、保護者が『入学させてよかった』と安心できる学校、  
卒業生が『母校』として自慢できる学校、そして、地域からは『頑張れ』と応援してもらえる学校」をめざす。
- 1 自尊感情や自己肯定感を高める：傾聴と共感、「ええとこはほめる」でも「あかんもんはアカン」のぶれのない生徒指導
  - 2 生徒の興味・関心を引き出す授業：教材教具の創意工夫で、「そうなんや」「わかった」「できた」の声が聞ける授業
  - 3 めざす進路の保障：計画的なキャリア教育による生徒の進路実現、「なりたい自分」の発見と、その実現に向けた確かなサポート
  - 4 部活動や学校行事等の活性化：頑張った生徒はどんどんほめて、「やったー」「やるやん」達成感を共感できる行事や部活動
  - 5 地域連携とPTA活動の活性化：形だけで終わらない、信頼と連携の構築

### 2 中期的目標

- 1 確かな学力を身につけるための取組み
  - (1) 1年次からの計画的なキャリア教育を通じて、学びへの意欲を高める。
  - (2) 多様な進路を実現するための進路支援システムを確立し、早期に進路目標をもたせる指導を行う。
    - ・総合的な学習の時間「発見」や各教科を通じて進路に関わるあらゆる情報を提供する。自己の適性を正確に知り進路実現のために早く準備をさせ、平成 28 年度は、卒業後に自己実現のための準備に備えるもの以外の進路未決定率を 3%以下に、就職内定率は 100%をめざす。
    - ・PTA主催の大学見学会の広報と充実を図る。
  - (3) 少人数授業（英語、数学）を活用し、基礎学力の定着と学ぶ意欲の向上を図る。
  - (4) ICTを活用した授業実践について研究協議を行い、積極的な活用を図る。ビジュアル教材の活用にも努め教材の共有活用化を図る。
  - (5) 各教科の指導（課題プリントの提出の徹底を含む）や評価を工夫し、定期考査時以外の家庭学習ゼロの生徒 56.9%（平成 27 年度）を、50%以下にする。
  - (6) 授業アンケートの分析と活用により、授業力の向上を図る。
  - (7) 研究授業の拡充や初任者研修・パッケージ研修等を通じ、堺上高「授業スタンダード」の確立と共有化を図る。
- 2 基本的な生活習慣の確立と規範意識向上に向けた取組み
  - (1) 登下校時の安全指導を強化するとともに、遅刻の減少と頭髪や服装等のマナーの向上を図る。
    - ・声掛けが生活指導の基本であることから、登校時の校門での声かけを毎日実施し、挨拶の徹底を図る。
  - (2) 生徒活動への参加に対するアプローチを強める。
    - ・学習への取組や、クラブ・クラス活動参加・出欠状況等に影響が大きいアルバイト（現在は 65.9%の生徒が経験）を最小限にとどめるため、合格者説明会時から保護者・生徒に広報活動の続け、生徒のクラブ活動を家庭と連携して支援する。
  - (3) 人間関係づくりに留意し、互いの人権を尊重する気持ちを育む。
    - ・入学当初から、HRや総合的な学習の時間、学年行事等で他者理解を深める指導を徹底する。
    - ・学校生活支援カードの活用や学校いじめ防止基本方針の徹底を図り、教育相談体制の充実をめざす。生徒の小さな変化にも少しでも早く対応ができるようセーフティーネットをよりきめ細かなものとする。
  - (4) 2学期以降、地域の祭りや生活リズムの変化で、遅刻する生徒が急増する傾向にある。進路の問題とも絡め時間を守る習慣を定着させる。
    - ・学年指導を工夫し、全教職員一致した指導を行う。
- 3 学校行事や生徒会活動・部活動の活性化に向けた取組み
  - (1) 部活動の更なる活性化
    - ・平成 27 年度は 1 年生が 51.4%、全体では 43.4%の部活動加入率であった。体験入部システムの改善や活動成果の広報等により平成 28 年度に全体で 45%以上、3 年後の平成 29 年度には 50%以上としたい。堺上高校は「部活動の盛んな学校」というイメージを広報活動等様々な活動を通じて定着させる。
    - (2) 練習場所の確保や練習環境の整備に努めるとともに、対外的活動を充実させ、運動部・文化部ともに大会や発表会への参加率を上げる。
    - (3) 部活動等における地域や小中学校との連携を推進する。
      - ・中高連携を推進するため、「堺上高杯」をさらに発展させる。
    - (4) 文化祭や体育大会等学校行事の更なる充実に向け、生徒の自主的な参画に努める。
  - 4 校内運営体制の改善と人材の育成
    - (1) 分掌や各種委員会等の業務の見直しを行い、業務の精選と簡素化、業務量の均等化、情報の共有化をめざす。
    - (2) 事務室業務の見直しを行う。業務内容の洗い出しを行い簡素化に努めるとともに、経費の効果的な執行に努める。
    - (3) 現在ある将来構想委員会の充実を図ることにより、将来に向けた新たな構想構築をめざす。
    - (4) 「フレッシュミーティング」（若手教員育成事業）を年 5 回開催するなど充実を図り、経験年数の少ない教員の育成システムを構築する。
  - 5 広報活動の充実と保護者や地域との連携の推進
    - (1) 「学校案内リーフレット」やホームページ等の工夫に努め中高連絡会を開催するなど充実を図ることにより、中学校等への広報の充実を努め、更なる連携を推進する。
    - (2) 教育産業（学習塾等）への広報活動を強化する。
    - (3) PTA活動内容の精査を行い、更なる活動の充実を図ることにより、保護者がPTA行事や学校行事に積極的に参加できるよう努める。
    - (4) 保護者向けに行っているメール配信の更なる充実を図る。平成 27 年度の登録率 60%を平成 28 年度は 65%以上をめざす。
    - (5) 隣接の小中学校や地域との連携推進を図る。

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【学校教育自己診断全体の結果から】</b>                      ○ここ数年で最高値であった昨年度の結果を、ほとんどの項目で上回ったことは、年々教職員の意識が向上しており、真摯に生徒と向き合っている成果の表れであろう。                      ○ただ、保護者の回答数が非常に低い（37.4%）ということが大きな課題であり、学校としてこの診断をどう有効に活用するかを保護者に周知徹底する方法に、さらなる工夫が必要であると思われる。</p> <p><b>【生徒の診断結果から】</b>                      ○本校の掲げる大きな柱の「学習面」で、肯定的回答値が上昇していることは、教職員の創意工夫が実った結果である。                      ○一方で家庭学習の習慣がついておらず、テスト期間以外は学習時間が 0 であるという生徒（54.1%）にどう意識付をするか、依然課題として残っている。                      ○学校外との連携やボランティアに対する意識は低く、学校として取り組む姿勢に改善すべき点があると思われる。</p> <p><b>【保護者の診断結果から】</b>                      ○生徒と同様、ほとんどの項目において、肯定的回答値が上昇した。                      ○特に、「学校行事への参加度」や「非常時の連絡の徹底」については、いずれも肯定回答値が 90%を超えており、これからもこれを維持できるようにすすめていきたい。</p> <p><b>【教職員の診断結果から】</b>                      ○他の教科との連携や校内研修についての肯定的回答値が上昇しており、これが授業力向上にも繋がっていると思われる。</p>	<p>第 1 回（6 月 20 日実施）                      ○授業見学及び校内見学の後、平成 27 年度活動報告及び平成 28 年度学校経営計画について説明し了承を得た。</p> <p>第 2 回（11 月 14 日実施）                      ○学校経営計画の進捗状況（授業アンケートの結果、進路状況、生徒状況、及び PTA 活動等）について報告した。また、教科書の採択についても、実際の教科書を閲覧していただき、意見をいただきながら承認を得た。</p> <p>第 3 回（2 月 7 日実施）                      ○平成 28 年度学校経営計画（評価）、平成 29 年度学校経営計画（案）、学校教育自己診断結果と考察、進路状況、生徒状況、及び PTA 活動について報告した。特に今年度の取組みで評価の高かった「堺上高杯」について質疑応答があり、次年度に向けて提言を受けた。</p> <p><b>【次年度に向けた学校への提言（まとめ）】</b>                      ○授業、学校行事等について教員間の同僚性を生かし、有意義な研修等を実施しながら改善を進め、保護者からの理解も得られるなど、一定の成果が見られる。                      ○今後、職種の減少・変容を踏まえたキャリア教育と、地域に認められる安心で安全な教育環境を提供できる学校経営について考えていただきたい。                      ○具体的には、以下の取組みを充実させたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業力向上のため、「フレッシュミーティング」と連動して行われる「授業見学まつり」を充実させるとともに、個々の進路に応じた個別学習や模試の活用等を進めること。</li> <li>2 現在行われている駐輪指導や正門付近の「あいさつ運動」等を通じて生徒との基本的な信頼関係を築き、その上で、ぶれない生徒指導を継続すること。</li> <li>3 SC や SSW 等、外部関係機関・人材との連携を充実させた教育相談体制の構築を深化させ、生徒指導と教育相談を両輪とした生徒にとって安心・安全な学校づくりを進めること。</li> <li>4 学校行事や部活動の活性化をめざし、特に「堺上高杯」をより充実させるとともに、地域と連携し貢献できる取組みについてさらなる検討を進めること。</li> </ol>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力への取組	<p>(1) 学びへの意欲を高める</p> <p>(2) 早期に進路目標を設定させる</p> <p>(3) 少人数授業の活用</p> <p>(4) ICTの活用</p> <p>(7) 研究授業等の拡充</p>	<p>(1) 新1年生も昨年に続き「基礎力診断テスト」を導入。入学当初から中学校段階でのつまづきの原因を生徒自身で理解させその克服を図る。</p> <p>(2) 外部講師等による進路講演会や就職支援ネットワークを活用した就職対策を行う。就職の面接指導や一般教養講習では時間順守や挨拶等徹底した指導をおこなう。医療看護系や4年制大学進学希望者向けには、個々の進路に応じた個別講習を実施する。27年度に引き続き「実力診断テスト」を活用し大学進学に特化した「放課後勉強会」を今年度実施する。 ・年2回の大学見学会の定着化と内容の充実、参加者増に向けた広報の充実。 ・漢検・英検・パソコン検定の受検促進を図る。</p> <p>(3) 少人数展開授業（英語・数学）等を活用し、生徒同士で互いに学びを高め合いながら、確かな学力を身につけさせる。</p> <p>(4) ICT機材の環境整備とその活用を図ることにより、生徒の興味・関心を引き出す授業作りに取り組む。</p> <p>(7) フレッシュミーティングと連動した、「授業見学まつり」と研究協議を今年度も実施し、課題を共有化し同僚性を活かした授業改善を図る。</p>	<p>(1) 学校教育自己診断における生徒の授業満足度60%以上に（H27は56.1%）</p> <p>(2) ・就職一次合格率を80%に（H27は76%）外部講師による進路講演会や分野別説明会を6回以上行う。（H27は6回開催）進路講演会への参加者数を計200人以上に（H27は計180人）「放課後勉強会」参加者を20人以上に。（H27は14人） ・2回の大学見学会参加者数を10%増に（H27は74人） ・H27漢検41人、英検37人パソコン検定60人の受検者の10%増をめざす。</p> <p>(3) 「全体授業と比較して分かりやすい」を50%以上に（H27は43%）</p> <p>(4) 情報機器活用度80%以上に（H27は76.2%）</p> <p>(7) 「授業見学まつり」公開教員数を20人に（H27は13人） ・授業について他教科と話し合う機会がある50%以上に（H27は47.1%） フレッシュミーティングを5回以上開催する。（H27は5回開催）</p>	<p>(1) 「基礎力診断テスト」結果を受け、基礎学力の定着に重点を置き授業を展開した。学校教育自己診断における生徒の授業満足度は<b>62.5%</b>であり、レベルに応じた授業が展開されていると判断できる。(◎)</p> <p>(2) ・就職一次合格率は<b>86%</b>となった。(◎) ・外部講師による進路講演会や分野別説明会を計9回行い、多様な進路希望に対応した。その内保護者向けの説明会は4回で参加者総数は<b>314人</b>であった。(◎) ・早期進学対策として、「放課後勉強会」を2年生でも実施した。参加者は2年25人、3年生12人、計<b>37人</b>であったが、3年生の意識を高めることが今後の課題である。(○) ・2回の大学見学会参加者は<b>70人</b>であり、昨年並みであった。内容を検証し、広報のさらなる充実に取り組みたい。(△) ・外部試験については、漢検23人、英検34人パソコン検定51人受検者となり、昨年より、やや低迷した。生徒への意識づけに工夫が必要だと考える。(△)</p> <p>(3) 英語・数学における少人数展開授業は非常に工夫が凝らされており、アンケートの肯定的な回答は共に<b>80%</b>を超えた。(◎)</p> <p>(4) 学校教育自己診断の情報機器活用度は<b>73.3%</b>であったが、教員の意識も高まり、授業で通常プロジェクターを活用している教員は昨年度の6人から<b>12人</b>に倍増した。(○)</p> <p>(7) フレッシュミーティングを年間<b>5回</b>実施し、経験の少ない教員のOJT、OffJTを実施した。その中の「授業見学まつり」では、今年度の授業公開教員数は<b>16人</b>と昨年に比べ微増であったが、研究協議等も含め、授業改善を図る一助となった。(○) ・「授業について他教科と話し合う機会がある」の回答は<b>63.7%</b>と上昇した。さらに研究協議に参加する教員を増やしたい。(◎)</p>
2 基本的な生活習慣確立と規範意識向上に向けた取組	<p>(1) 登下校時の安全指導とともに服装等のマナーの向上を図る。</p> <p>(3) 互いの人権を尊重する気持ちを育む。</p>	<p>(1) ・増加する自転車事故を減らすため、警察等と連携し、自転車事故防止やマナー向上のための講習会を実施する。 ・登校時の声掛けを、駐輪指導と並行して毎日行う。 ・遅刻回数による段階指導や遅刻防止週間、入室許可書等これまでの指導システムを継続させながら減少に取り組む。 ・頭髪指導日の設定など頭髪や服装マナーを継続的に指導する。 ・校外補導に際し地域清掃を行い連携を推進する。</p> <p>(3) 昨年実施したスクールソーシャルワーカーを活用した取組みを拡大し、16回のケースワークを実施する。生活支援カードの活用を図り生徒の変化にきめ細かな対応ができるよう努める。スクールカウンセラーと協力し、相談室の有効活用を図り外部機関との連携に努める。</p>	<p>(1) ・学校自己診断の分析で、校則やルールの遵守肯定度を85%以上に（H27は78.9%） ・自転車事故件数H27の0件維持をめざす。 ・遅刻統計の総数で平成27年度（10,105回）の10%減をめざす。 ・月1回の校外補導の実施と地域清掃の実施</p> <p>(3) 新たにスクールソーシャルワーカーを招聘したケースワークを16回開催する。「担任以外にも相談できる先生がいる」の肯定度を55%以上に（H27は48.6%）教育相談件数（昨年43件）とその分析内容</p>	<p>(1) ・校則遵守を毎学期校長・生徒指導部長から呼びかけた。学校教育自己診断による肯定回答は<b>81.7%</b>となり、生徒の意識は高まっていると思われる。(△) ・警察と連携し、交通安全講習会を実施し、自治体との連携で自転車の意識調査や自転車の安全点検も行ったことで、生徒の意識を向上させた。その結果、昨年までは、報告されなかった小さな接触事故についても生徒から<b>4件</b>の報告があった。(○) ・また、2学期より登校時の「あいさつ運動」を校門にて実施した結果、12月現在の遅刻総数は昨年比<b>20%減</b>となっただけでなく、昨年毎月4件程度あった登校マナーに関する苦情が、2学期以降<b>0件</b>となった。(◎)</p> <p>(3) SCとSSWを年間通して活用することで教育相談委員会が組織的に迅速に機動できるようになりつつある。ケースワークも予定どおり実施した。「担任以外にも相談できる先生がいる」の肯定回答は<b>51.7%</b>であり、相談件数は<b>42件</b>と増加してはいないが、外部とタイミングを逸することなく繋げる体制ができた。(○)</p>
3 学校行事や生徒会・部活動の活性化に向けた取組	<p>(1) 部活動の更なる活性化</p> <p>(2) 対外活動の充実</p> <p>(3) 部活動等における地域や小中学校との連携</p> <p>(4) 学校行事のさらなる充実</p>	<p>(1) 合格者説明会等において部活動に入ることの意義を保護者や生徒にも十分に説明する。中学生向け学校説明会においても部活動紹介を積極的に行う。入学後の体験入部にも工夫を加え、1年次の加入率をあげる。</p> <p>(2) 対外活動の充実を図り、大会成績において平成27年度以上の成績をめざす。教員が指導に時間を取りやすいような体制や環境整備に努める。</p> <p>(3) 「堺上高杯」を組織的に充実させ、地域の中学校との連携を深める。また、近隣小学校におけるダンス指導や卓球部・バドミントン部の必修クラブ指導、教員による授業見学等の交流を更に促進させる。</p> <p>(4) 体育大会や文化祭等の行事においては、生徒会執行部や部員・有志の参画に努め生徒が達成感を感じることでできる行事づくりをめざす。</p>	<p>(1) 1年次の加入率を、55%以上、全体の加入率を45%以上、女子運動部加入率20%以上をめざす。（H27はそれぞれ51.4%、43.4%、19%）</p> <p>(2) 運動部で近畿大会以上の出場をめざす。（H27は全国大会に陸上部が出場）</p> <p>(3) 「堺上高杯」を2回実施し、中学生参加者300人以上をめざす。（H27は270人）隣接小学校必修クラブ指導参加部員を10人以上に（H27は3人）</p> <p>(4) 学校行事満足度を70%に（H27は66.5%）「生徒会行事への関心と積極的な参加」肯定度を50%に（H27は43%）</p>	<p>(1) 入学後の体験入部で工夫を凝らしたにも関わらず、思ったように入部率が伸びなかったが、今年度組織的に実施した「堺上高杯」によって、中学生にアピールできたことが、次年度の入部率に反映すると期待している。 1年：<b>45.2%</b>、全体：<b>39.7%</b>、女子運動部加入率：<b>15%</b> (△)</p> <p>(2) 対外活動は積極的に行ったが、大会の成績を大幅に伸ばすことはできなかった。(△)</p> <p>(3) 「堺上高杯」を組織的に充実させ、以下の日程で各種目について開催した。 ・8月：サッカー(6校)、陸上(1校)、ソフトテニス女(7校)・10月：柔道(6校)・11月：バスケット(8校)・12月：ソフトテニス男(10校)、バドミントン(2校) ・1月：バレーボール(3校) 述べ参加人数は<b>710人</b> (◎) ・近隣の小学校へのクラブ員の派遣は見送られた。(△)</p> <p>(4) 学校教育自己診断による学校行事満足度は<b>72.2%</b> (◎)で、「生徒会行事への関心と積極的な参加」の肯定回答は<b>45.6%</b> (△)であった。次年度に向けて、将来構想委員会で行事の見直しを行っている。</p>

4 校内運営体制の改善と人材の育成	<p>(1)分掌や各種委員会等の業務の見直し</p> <p>(2)事務室業務の見直し</p> <p>(3)将来構想委員会の充実</p> <p>(4)経歴年数の少ない教員の育成を図る。</p>	<p>(1)将来を見据えた運営委員会のあり方自体を検討する。 業務分担表により業務を整理し、業務の精選と簡素化、業務量の均等化、情報の共有化をめざす。業務が固定化しつつある将来構想委員会が有機的な機能を担えるよう業務や課題を再チェックする。</p> <p>(2)事務室業務分担表を作成する。校長マネジメント経費等も含めた予算の効果的執行に努める。</p> <p>(3)学校独自の提言書を作成し、個々に校長に提出、また、将来構想委員会においても、新たな取組提言や提案を行い、その具現化に取り組む。</p> <p>(4)「授業見学まつり」を昨年に引き続き開催する。フレッシュミィンクにおいて首席等を活用し、授業力はもとより分掌業務や担任業務等などの研修を実施し教師力の向上を図る。また、人権研修や教育相談研修などの実施に際し、外部講師を招聘し実態に即した内容となるよう創意工夫を行う。</p>	<p>(1)1学期中に運営委員会で検討会議を設ける。業務を整理することで、「各分掌等が有機的に機能している」を75%以上にする。(H27は69%)</p> <p>(2)4月に分担表を作成する。</p> <p>(3)提言書提出数を10シート以上に。「学校運営に教職員の意見が反映されている」を60%以上に(H27は50%)</p> <p>(4)「校内研修が計画的に実施されている」を80%に(H27は73.8%) 「教育実践に役立つ内容となっている」を70%に(H27は61%)</p>	<p>(1)年度初めに、運営委員会は各分掌からの提案について協議する場であることを確認し、さらに、学校の特色づくりに向けた提案を将来構想委員会に託している。 業務量の均等化という点では、業務の特性や、人の資質等も関わってくる困難な問題であり、依然課題として残っている。 「各分掌等が有機的に機能している」は<b>75.6%</b>。(○)</p> <p>(2)4月に事務室の業務について分担表を作成することで、業務の確認を行った。 また、これまで滞っていた業務について、改めて洗い出し、確実に処理を進めた。(○)</p> <p>(3)11枚の提言シートが提出されており、その内容について精査し、次年度の取組みに活かしたい。 「学校運営に教職員の意見が反映されている」は<b>51.1%</b>(△)</p> <p>(4)本年度の教職員研修を<b>7件</b>実施し、それぞれのアンケート結果から、有意義なものであったと言える。(◎) 校内研修が計画的に実施されている」は<b>80.0%</b> 「教育実践に役立つ内容となっている」は<b>70.4%</b></p>
5 広報活動の充実と保護者や地域との連携の推進	<p>(1)中学校等への広報の充実に努め、さらなる連携を推進する。</p> <p>(3)PTA活動の更なる充実に努める。</p> <p>(4)保護者向けメール配信の充実に努める。</p> <p>(5)隣接小学校との更なる連携と地域との連携促進を図る。</p>	<p>(1)全出身中学校に対し広報に努めるとともに3月に新入生の状況把握を行う。中高連絡会を実施し、生徒状況等について共有化を図る。HP更新体制を整備し、内容の充実に努める。</p> <p>(3)・大学見学会の参加者増を図る。文化祭のPTAブースに創意工夫を加え更なる充実に努める。 ・PTA一日研修や教養講座の参加促進を図る。</p> <p>(4)保護者向けメール配信「365日いつでもネット」の登録者を増やすとともに発信内容の充実に努める。</p> <p>(5)隣接小学校への授業見学やダンス部による交流を引き続いて行う。月1回の校外補導時に地域清掃を行い連携に努める。地元企業との連携方策について検討し具体化する。</p>	<p>(1)・全出身中学校と連絡を取り、生徒の状況把握を行う。(50校) ・中高連絡会参加25校以上をめざす。(H27は21校)</p> <p>(3)・大学見学会は10%増を(H27は2回計76人)、 ・研修・講座は定員オーバーを目標とする。</p> <p>(4)登録率70%以上、年間配信数40件以上を目標とする。</p> <p>(5)隣接小学校授業見学者数を20人以上に(H27は13人)</p>	<p>(1)・3月の入学予定生についての状況把握はもれなく実施し、生徒の個別の支援に役立てた。 ・中高連絡会の実施にあたっては、時期的に中学校にとって参加しにくい日程であったようで、参加校は<b>14校15人</b>と目標には至らなかった。ただ、独自の取組みを評価する声を中学校側からもらっており、継続して実施したい。(○)</p> <p>(3)・大学見学会の参加者は<b>70人</b>、研修・講座はほぼ定員の参加となった。(△)</p> <p>(4)登録時にこちらの手違いがあり、保護者に徹底できず、登録率<b>34%</b>と低迷した。ただし、内容は昨年度よりかなり充実させ、保護者のニーズに沿うものとなった。(△)</p> <p>(5)小学校へのダンス部の派遣や教員の授業見学は見送られたが、本校での研究授業への参加を近隣の小・中学校に呼びかけ、小学校から参加があったことは一歩前進である。(△)</p>